

保育内容・環境

岸井勇雄・無藤 隆・湯川秀樹
[監修]

横山文樹
[編著]

師岡 章・寺田清美・瀧川光治・原子はるみ
野口隆子・掘越紀香・守隨 香・坪川紅美
[著]

第三版

同文書院

見本

目次

Contents

はじめに	i
改訂にあたって	ii
編者まえがき	iv

第1章 領域「環境」の意義 1

1. 現代の子どもの現状と幼稚園教育の課題	1
2. 社会の変化と「幼稚園教育要領」	3
3. 「環境」による教育の意義	5
4. 領域の意義と領域「環境」の考え方	11
5. 「ねらい」と「内容」について	12
コラム 認定こども園	20

第2章 子どもの発達と環境 25

1. 保育と環境	25
2. 子どもの遊びと環境のかかわり	31
3. 個の発達・集団の発達と保育者の役割	37

第3章 子どもの発達と自然環境 45

1. 自然環境へのかかわりを通して育つもの	45
2. 「出会い」そして「感じる」環境としての自然環境	52
3. 季節感を感じる保育の展開	55
4. 飼育・栽培の意義・目的	61

第4章 子どもの発達と園の環境 67

1. 子どもの主体的な生活と環境	67
2. 環境による教育の実践	69
3. 園内環境の構成と課題	77

第5章 人的環境としての友だち・保育者の役割 89

1. 乳幼児期の子どもと保育者のかかわり 89
2. 子どもにとっての友だち 95
3. 人的環境と子どもの育ち 99

第6章 子どもの発達と物的環境の役割 105

1. 物的環境の意義 105
2. 人的環境と物的環境との関係 110
3. 園具・教具の意義 117
4. 安全教育と災害への備え 130

第7章 好奇心、興味、関心を育てる環境 133

1. 文字への関心を育てる 133
2. 園生活の中の数量概念と遊び 137
3. 地域の伝統文化に親しむ 140

第8章 これからの幼児教育と課題 145

1. 子どもの発達の特徴と領域「環境」の重要性 145
2. 科学性の芽生え（知的発達）を促す環境 146
3. 科学性の芽生え（知的発達）を促す援助の視点 152
4. 環境から見た幼児教育の今日的課題 156

巻末資料 160

索引 168



領域「環境」の意義

- 〈学習のポイント〉
- ① 保育現場において環境が重視される社会的背景について考えてみましょう。
 - ② 子どもが「環境とかかわる」ことの意味と意義について学びましょう。
 - ③ 領域「環境」と「環境を通して行う教育」の関係について学びましょう。
 - ④ 自然環境を生かした保育について、人的環境、物的環境との関連で考えましょう。
 - ⑤ 「領域」の意義を学校教育の「教科」との違いから学びましょう。

中世以降の近代国家において、子どもの発達には先天的条件（遺伝）と後天的条件（環境）のどちらで決まるのか、という論争があった。これがすなわち、「氏が育ちか」という論争である。しかし、こうした論争も近代国家においては、人間として生まれてきたからには人間的環境で育てられなければならない、人間に見られる特徴や能力は、身につかない。人間としての素質を生かすためには、後天的条件を準備することが必要であるとする意見が大勢を占めるようになった。つまり、人間の成長・発達にとっては、環境という後天的条件が重要であると考えられるようになった。したがって、生後間もなくから乳幼児期まで、その環境からどのような影響を受けたのか、環境とどうかかわってきたのか、環境とのかかわりからなにを学び、なにを身につけたのかということが、人間として生きていくうえできわめて重要であるという考えが一般的で主流となっている。幼稚園教育、保育所保育も「環境による教育」が重視されるのは当然である。この章では、社会的背景から領域「環境」の意義を考える。

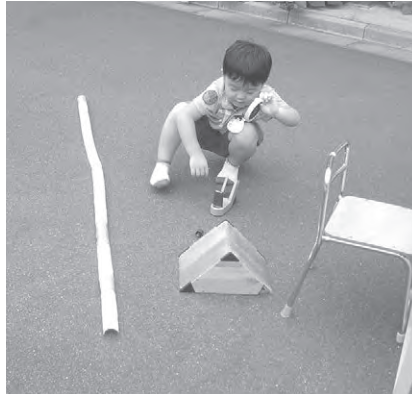
1. 現代の子どもの現状と幼稚園教育の課題

現行の「幼稚園教育要領（以下「教育要領」とする）」では、幼稚園教育の基本として「環境を通して行う教育」が示されている。なぜ、現代の教育では「環境による教育」が強調されるのか、そうしたことの社会的背景は、どこにあるのだろうか。

現代の環境教育の重要性を示すものとして、教育要領（2017〈平成29〉年3月）の前文には、「**幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、一人一人の資質・能力を育てていくことは、教職員をはじめとする幼稚園関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から幼児や幼稚園に関**

③どんぐりの道をつくる

どんぐりをころころ転がしているうちに、「どんぐりの道」をつくって、上から転がしてみたくなったようだ。トイレットペーパーの芯を利用して、「長い道」をつくった。



④上から転がす

椅子や積み木を利用して傾斜をつくってどんぐりを転がしてみた。最初は1個ずつだったのが、一度にたくさんのどんぐりを転がしてみたり、角度を変えたり、受け皿を考えたり、子どもなりの工夫が見られた。



⑤どんぐりのごちそう

どんぐりを使ったままごと遊びがはじまった。どんぐりは、時にはご飯になり、時にはスパゲッティになる。フライパンで炒めるまねをしていた。



[自然を生かして、好奇心、探究心を育てる]

⑥たんけん こみち

園庭からテラスに続く道を「たんけん こみち」と名づけた。途中にはプランターにナスが植えてあり、トマトがあり、スイカをつくったこともある。もちろん、子どもたちの大好きな虫もたくさんいる。敷石をはがして、いろいろな虫を見つける。

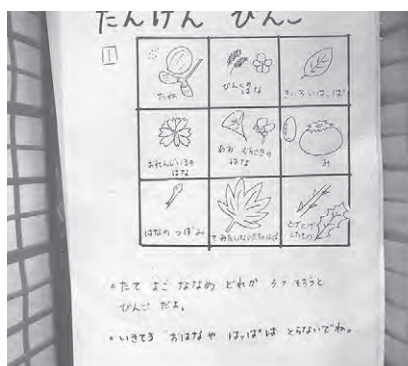


⑦たんけん びんご

園内にある、葉や実を見つけると、シールがもらえる。

縦、横、ななめに3つ揃えると「びんご」であることを知らせる。

※季節によって、「びんご」の内容も変わる。



⑧子どもは真剣

園内のあちらこちらを歩きながら、「びんご」に書いてある、種、葉、実などを見つけていく。



資料1-1 自然との

	4月	5月	6月	7月	8月
ねらい	○幼稚園や先生に親しみをもち喜んで登園する ○自分の好きな場や遊具を見つけて安定して過ごす		○いろいろな遊びに関心をもち自分なりにやってみようとする ○学級の友達と一緒に動いたり、遊んだりする楽しさを知る		
内容	・春の自然に親しむ ・日差しや風の心地よさを感じ取る ・身近な動植物や虫などに興味をもち、かかわろうとする ・身近な動植物を見たり触れたりして安定感や親しみをもち ・砂や水の感触を楽しみ安定する ・身近な草花に触れたり遊びに使ったりする		・いろいろな虫がいることがわかり見つけたり触れたりして親しむ ・雨に関心をもち ・夏の自然を感じ取る ・いろいろな水遊びを通し水に親しみ心地よさを感じる ・種まき苗植えに興味をもち土に親しむ ・種や苗の世話を教師と一緒にやる ・自分が植えた植物の変化に気づく ・苗や種の世話をすると成長することがわかる ・植物の成長に気づいたり収穫を楽しみにしたりしながら世話をするようになる		
植物・栽培物	○園庭の草花 ・マーガレット ・マリーゴールド ・菜の花 ・パチュニア		○アサガオ、フウセンカズラの種植え ○ミニトマトの苗植 ・ミニトマト収穫 ・夏休み中は持ち帰る *親子で育てる楽し ○親子で稲の苗植え・世話をやる ○年長児から夏野菜をごちそうになる		
虫・生き物	○ウサギ ○ザリガニ ○ダンゴ虫、あり ○蝶（モンシロ・あげはなど）		・見たり触れたりして遊ぶ ・脱皮などの成長のようすや動きのおもしろさを見る ○カタツムリ ○ミミズ		
自然現象	○春を感じる ○感触や開放感を楽しみ安定する ・砂場で砂の感触を楽しむなど		○身近な自然現象を具体的に感じ取れるように ・風を楽しむ（くるくる三角づくり、シャボン玉、スティックリボン） ・雨を楽しむ（傘を差して園庭散歩、雨の日の虫見つけなど） ・水を楽しむ（ビニール袋、透明カップ樋、プール遊びなど）		
園外での取り組み	5月 親子遠足（21世紀の森と広場） ○親子でネイチャーゲームを楽しむ ○公園を散策し春の自然に親しむ（サクランボ、タンポポなどに触れ春探しをする） *虫を呼び寄せる環境づくり（ゲームで見つけた枝を集め園庭に置き虫の住み家として活用する）		6月 K中央公園 プラネタリウム ○園内を散歩し初夏の自然に親しむ（サクランボ、シロツメグサなどで遊んだり、自分たちで枝を集めたりする） ↓ *「枝・サクランボを見つけてこよう」など目的をもたせる *集めた枝は壁面に活用する ○星に興味をもち ↓ *折り紙で星をつくって遊ぶ *七夕の活動へとつなげる		

*親子で自然に触れる活動を計画的に取り入れ、保護者の自然への関心を高めていく。

（親子遠足でのネイチャーゲーム、稲の苗植え、収穫物を親子で食べる。）

*年長児が動植物の準備、世話、収穫しているようすを見せる機会を設け、関心をもちせたり来年への意識につなげたりする。

*夏休み・冬休み中はミニトマトやチューリップは家庭で育てるよう協力いただき、親子で育てる楽しさが味わえるようにする。

かかわり年間計画（4歳児）

（墨田区立H幼稚園）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○遊びの中で自分なりの動きを出したり友達とのかかわりを楽しんだりする ○学級全体の活動に喜んで参加し自分なりの力を発揮する		○気の合う友達の中で思ったことや考えたことを出し合い、一緒に遊びを進めていこうとする ○年長児になる期待をもち学級の友達とのかかわりを感じながら園生活をすすめる				
	・秋の自然に親しむ ・木の実や虫を見ついたり、触れたりして遊ぶ ・見つけてきた物を遊びに使ったり園で飼ったりする ・身近な動植物に興味をもち、よく見たり変化に気づいたりする ・種取りを楽しんだり、いろいろな形の種があることに気づいたりする		・冬の自然に親しむ ・空気や水の冷たさを感じる ・吐く息の白さに気づく ・園庭の霜や氷に触れて遊ぶ ・飼育栽培物に親しみをもち接したり世話をしたりする		・春の訪れを感じる ・球根の成長に気づく		
	・色水遊び ・種取り（5歳児になったら種を植える） （フウセンカズラ、アサガオ、オシロイバナ、黄花コスモスなど） ・片づける ○木の実や落ち葉を使ってリースをつくる さが味わえるようにする		○球根植え （チューリップ、ヒヤシンス、クロッカス） ・収穫 ・脱穀 ・会食 （粃殻は肥料として使う） ○年長児が園内で栽培したサツマイモの収穫を見る。ツルで遊ぶ		・成長のようす ・開花 （飾る、香りを楽しむ）		
	○トンボ ○バッタ・コオロギ ○蟬の抜け殻見つけ		○虫がだんだんいなくなる				
	○秋を感じる ・自然物に触れ遊ぶ ・落ち葉、紅葉など		○冬を感じる ・水の冷たさを感じる ・氷、霜などで遊ぶ		○春の訪れを感じる ・つぼみがふくれる ・球根の芽が伸びる		
	9月 H公園		10月 芋掘り遠足		2月 A自然公園		
	○秋の自然に親しむ ○木の実を拾い楽しむ ○虫を見つたり捕まえたりする ↓ ＊拾う数を知らせ目的をもたせる ＊バッタ、コオロギは園で飼う ＊木の実遊びや製作に使う		○土に親しみ収穫の喜びを味わう ○いろいろな形の芋やツルに触れ楽しむ ↓ ＊芋版遊び・芋をつくったり描いたりする		○春の訪れを感じながらお別れ遠足を楽しむ		

そこで、食育に関する具体的な取り組みを2つ紹介したい。

事例3-8 食育活動を毎日の生活や遊びの中に取り入れている園

筑子保育園（中山園長／茨城県）

この園では、30年前から、希望者に「朝食の提供」を継続している。

園長は、「朝食抜きの子が田舎でも20%を超す時代になった今、保育園の食事が子どもたちの命を支えているのかもしれない。うんとお腹がすくくらいの遊びとともに、和食を中心とした具だくさんの味噌汁、おかわり自由のご飯、ひじきなど家で食べない食材などの使用も考え、食を通しての健康管理をする時代に、もうなっている気がする」と語っている。

さらに、食の細い3歳未満児には、朝食の補食として、朝がゆの提供をしている。朝がゆは、子どもたちには好評とのこと。朝食を摂ってきたにもかかわらず、おかわりをする子もいるとか。また、野菜が苦手な子も、野菜入りのおかゆを「おいしいね」と言って食べたり、おかわりなどをしている。

「おかゆは、お米から炊いている。子どもたちには、味噌味が一番人気」とは、木戸栄養士の言葉である。献立も、1ヵ月間で同じ日はなく、野菜を育てたり、皮むきを手伝うなどは日課になっている。

子どもたちが食文化に出会っていくことは、体力づくりにもつながっていくことになる。この園の子どもたちの体温調査を見ると、低体温児がいないことに驚く。



◀ナスの苗を植えている



▲皮むきのお手伝い▲
（左）きぬさや、（右）竹の子

事例3-9 田植え・稲刈り体験・果物狩り宿泊遠足をしている園

24 時間保育エイビイシティ保育園（片野清美園長／東京都）

夜間保育や深夜保育、学童保育などさまざまな形の保育を行い、時代のニーズに合わせた先駆的な保育を目指す片野園長は、『『昼も夜も子どもは平等』。子どもたちが友だちの中で、楽しく過ごせたという思い出をたくさんつくること、それを私たちの生きがいとしたい、それがポリシー』と語り、月に一度の遠足や茨城県魚住農園での田植えや稲刈りに出かけ、収穫した無農薬米が毎日の給食に登場する。その後の苗の成長のようすを現地で交換もする。さらに副食も無農薬野菜である。都会の中に住む子どもたちだからこそ、自然に触れる機会を多く経験してほしいと、本物の味を知ってほしいと語る。



◀ 田植え



◀ ▼ 稲刈り



ある園の3歳児保育室のコーナーを図4-1に紹介しよう。

大きく分けて5つのコーナーを保育室の中に設定している。まず、保育室の奥を利用した広めの「ままごとコーナー」である。じゅうたんや畳をしき、流し台、戸棚、食器などを壁側に設置している。ままごととは幼児に人気の遊びのひとつである。エプロンやバック、かごなどがさりげなく置いてあったり、座卓があると子どもたちはお母さんやお父さんになりきり、すっかり熱中してしまう。ままごとコーナーからベビーカーに人形を乗せて隣のクラスのコーナーに出かけたり、ホールやテラスにごちそうをもって行き、ハイキングやお花見ごっこをしたりとコーナーだけの遊び*にとどまらず、移動、発展した遊びをも意図している。ままごとだけでなく、時にはレストランやパン屋さん、ケーキ屋さんに変身することもできるコーナーである。

次は「製作コーナー」である。丸テーブルと製作道具のワゴンがあり、素材箱から自由に選び、製作活動ができるように設定している。自分で遊ぶものをつくる子や飾りものをつくる子などさまざまであるが、保育者が季節の飾りなどを見本につくっておくと、まねしてつくっている姿も見られる。それらを保育者が壁面飾りなどに積極的に生かすことによって、自分たちのつくったものに愛着をも

*たとえば、テラスに大工・木工コーナー、ステージはパフォーマンス等、園全体で大きなコーナーを設定して、よりダイナミックに活動するのもよいだろう。

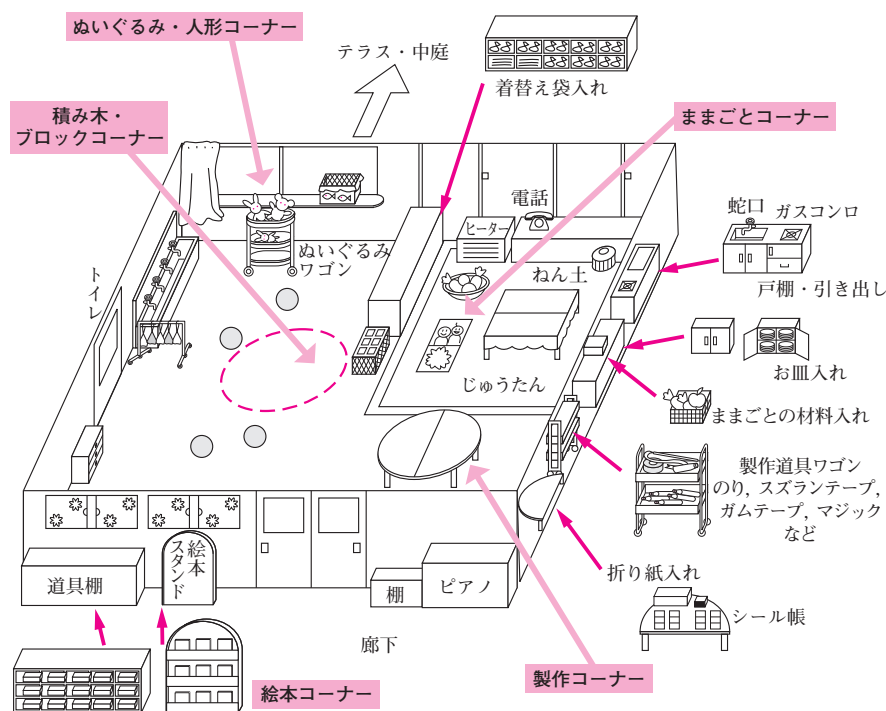


図4-1 3歳児のコーナー

つことにもつながり、喜びも湧いてくる。

「絵本コーナー」は保育室内の少し落ち着ける雰囲気のある場所に設置している。子どもたちが興味・関心を持ちそうな本や季節の本、行事に関連した本などを準備しておく。子ども同士で頭を寄せ合って見ていることもある。

「積み木・ブロックコーナー」はスペースを少し広く取ったコーナーである。積み上げたり、並べたりが自由にできる場所であることと、くずれても危険のない場所を選び、設定している。

「ぬいぐるみ・人形コーナー」は人形類を移動ワゴンに入れ、窓の台を利用している。お人形ごっこや指にはめた人形を使い、台をステージにして遊ぶことができる。人形を持ち、ままごとコーナーに遊びに行く子どもも多い。

この園は2人の保育者が3歳児を担当しており、それぞれのコーナーで展開される遊びの中で1人ひとりの子どもにかかわり、いっしょに楽しみながら個々の子どもの思いをくみ取るようにしている。

(4) 素材、用具

子どもの身近にある素材とのかかわりには、重要な要素が含まれている。ここでは、まず5歳児の組で行われた、水遊びで動く船をつくる事例を挙げてみる。その船は、ペットボトルに割り箸をつけて、輪ゴムの動力でプロペラを回して進むものである。子どもたちはプールに浮かべて動かし、遊びの中で予想以上にいろいろなことに気づき、十分に遊びを堪能した。この過程で、子どもたちは初めに丸や四角のペットボトルを選ぶ。それから箸の位置や角度を試行錯誤しながらつけた。そして、最後にゴムの巻き方を繰り返し試しながら前に進むことを覚えた。水に浮かべて動いたときの喜びは格別である。子どもたちは船づくりに興味を示し、好奇心をもって素材にかかわり、水やゴムの性質、動くことの情報を知ることができた。



▲5歳児のつくった船を借りて遊ぶ3歳児たち



▲南の国のヤシの木づくり

幼稚園教育要領からの抜粋 〈環 境〉

(文部科学省 平成 29 年 3 月 31 日改訂)

(平成 30 年 4 月 1 日施行)

〔 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。 〕

1 ねらい

- (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

2 内容

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- (6) 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。
- (7) 身近な物を大切にする。
- (8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- (9) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- (10) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。

- (1) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- (2) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- (1) 幼児が、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の幼児の考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。
- (2) 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。
- (3) 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にすること、公共心、探究心などが養われるようにすること。
- (4) 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。
- (5) 数量や文字などに関しては、日常生活の中で幼児自身の必要感に基づく体験を大切にし、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。

保育所保育指針からの抜粋 〈環 境〉

(厚生労働省 平成 29 年 3 月 31 日改定)

(平成 30 年 4 月 1 日施行)

1 乳児保育に関わるねらい及び内容

(2) ねらい及び内容

ウ 身近なものと関わり感性が育つ

身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。

(ア) ねらい

- ① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。
- ③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。